

福島の子どもたちが「ひまわり大使」として九州にやってきました



神在太陽光発電所に植えられたひまわりと一緒に



糸島の海岸で、放射能汚染の心配をせずに思いっきり海を楽しんだ



サンシャインワークスのひまわり畑ではほとんどの花が咲き終わっていたが、「福島の子どもが、福岡や熊本でも育っているところが見れてうれしい」と子どもたち



小国町で農業体験。生産者からハサミの使い方や収穫したとかぼちゃを収穫した



くまもとの理事会メンバーに教わりながら、パプアの力カオ豆を原料にチョコレートを作った

※1 ひまわりプロジェクト
福島のNPO法人シャロームは、障がいがある人もない人も共に生きる社会を目指して活動しているボランティア団体。ひまわりプロジェクトは、放射能の影響でひまわりが栽培できなくなったシャロームが、全国の支援者に育ててもらったひまわりの種から油を搾り、その油の販売収益金を3つの目的の実現に役立てている取り組み。①福島と全国との未来に繋がる絆づくり②障がいをもつ仲間の仕事づくり③福島に住む子どもたちの県外へのリフレッシュ支援

グリーンコープは2014年から「ひまわりプロジェクト」を通して福島の子どもたちを応援しています。「ひまわりプロジェクト」の一環に、福島県の子どもたちがプロジェクトの協力者に感謝の気持ちと福島の子どもの今を伝えるべく、「子どもひまわり大使」という交流事業があります。2015年8月3〜5日、「子どもひまわり大使」の小学生から高校生までの10人が九州を訪れました。放射線量を心配せずにのびのびと遊び、グリーンコープの関係者と交流しました。3日間のようすと子どもひまわり大使の報告を紹介します。

8月3日、元気な笑顔で博多に到着した子どもたちは、福岡・熊本で3日間を過ごした。1日目、福岡県糸島市の神在太陽光発電所を見学。パネル横のひまわりの花がちょうど咲き始めた頃で、グリーンコープの応援を感じてもらえる時間となった。柳川市の無名舎―こどもの家では、乳幼児から高校生、保護者と交流した。2日目、柳川の水路で初めてのボート漕ぎに大はしゃぎ。熊本県に移動してサンシャインワークスでは施設で働く障がいのある人たちと交流し、ひまわり畑を見学。その後、くまもとの組合員と民衆交易品の一つパプアの力カオを使つてのチョココレ

1つづくり体験で交流した。3日目、熊本県小国町の産直生産者の畑で収穫体験。その後の川遊びは心身ともほっとするひとときとなった。今回訪問した各地で、福島の子どもたちは原発事故後感じたことや福島の今を報告した。
※2グリーンコープ連合の初代会長故武田桂二郎さんが自宅を開放して始めた託児所と塾
※3グリーンコープが仕事を委託している、多機能型の障がい福祉サービス事業所
※4グリーンコープではインドネシア・パプア州で採れる力カオを使ったチョコレートの商品開発をすすめている。その一環としてのチョココレトを手作りするワークショップ



No.86

市民電力をすすめる

グリーンコープエリアでは、次々と自然エネルギー発電所づくりがすすめられています。2013年9月に発電を開始した福岡県の神在太陽光発電所に続いて、兵庫、山口、佐賀、大分、宮崎の各県でも自然エネルギー発電所づくりに向けた検討を行なっています。現在、熊本県では阿蘇郡小国町の地域住民が立ち上げたローカル・パワー株式会社と共同で、杖立温泉熱発電所と馬洗瀬農業用水発電所を建設中です。グリーンコープと同じ思いの地域の市民団体と出会い、連帯して自然エネルギー事業に取り組んでいます。

電力の自由化で、2016年4月には一般家庭でも電気を選ぶことができるようになります。これからも引き続き市民発電所づくりをすすめて、自然エネルギーでつくった電気を使い「原発のない未来をつくりたい」という私たちの思いを実現させていきましょう。

グリーンコープ共同体組織委員会

福島の今と復興

子どもひまわり大使の報告

最初に子ども大使の高校生が、ひまわりプロジェクトが始まったきっかけとその目的について「ひまわりを通じて繋がった全国の皆さんが、今もなお福島を支えてくれています。そのような繋がりを大切にすることで、未来へと永く続くお互いに支え合える絆づくりをめざしたいと思います」と思いを力強く話しました。子ども大使たちは、発表に取り組むために事前に福島にある色々な施設などに行つて話を聞き、その時感じた思いや願いをみんなに伝えました。

りの種でクッキーを作る。一つひとつ小さなひまわりの殻を、中の種を割らないように剥く難しい作業だ。施設で働く皆さんの笑顔がとても印象的だった。ハンディを抱えながらも、誰かのために自分たちができることをすると頑張っている姿に感動した。(高1)

震災後、「食べもの」は放射能検査をしたものを食べている。親や周りの大人は、子どもが食べることを考える注意をはらう。私は食べるのが心配だったけど、検査して安心している。(中1)

福島にある障がい者施設では、ひまわりプロジェクトに関わる仕事を手掛けている。お菓子班では、ひまわり

福島のある場所から別の場所に移動しただけで、根本的な解決ではないと知りハッとさせられた。大切なふるさとを失ってしまったこと、消せない放射能問題、原発の存在等に向き合う必要があると思った。農家の皆さんの苦しみや悩み、努力を、安全な食べものを必要としている私たちが伝えていければと思った。(高3・中1)



報告を聞くくまもとの理事会メンバー

桜がきれいだった近くの山は公園もあって私たちが毎日遊ぶ場所だった。震災で放射能に汚染され、桜の木も伐り倒されてしまった。とても悲しい。今は除染された公園では遊べるようになった。早くもとの姿にもどってほしい。(小5)